

2024年3月期 第2四半期 決算説明会



2023年11月9日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2024年3月期 第2四半期決算状況

2024年3月期 第2四半期決算におけるポイント	4
1. 売上高・利益	5
2. セグメント別業績	7
- 自動車電池（国内）	8
- 自動車電池（海外）	10
- 産業電池電源	12
- 車載用リチウムイオン電池	15
- 特殊電池およびその他	18
3. 貸借対照表	19
4. キャッシュ・フロー計算書	20
5. 設備投資・減価償却費・研究開発費	21
6. 連結業績予想の修正	22

2024年3月期 第2四半期決算状況

2024年3月期 第2四半期決算におけるポイント

2024年3月期 第2四半期業績 (4-9月)

	2022 年度 第2四半期 (4-9月)	2023 年度 第2四半期 (4-9月)	増減	前年比
売上高	2,352 億円	2,568 億円	+216 億円	+9.2 %
営業利益	82 億円	127 億円	+45 億円	+54.1 %
のれん等償却前営業利益	88 億円	129 億円	+41 億円	+47.6 %
経常利益	60 億円	120 億円	+60 億円	+99.4 %
親会社株主に帰属する四半期純利益	17 億円	60 億円	+43 億円	+247.7 %
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益	22 億円	62 億円	+40 億円	+176.8 %

業績の動向

- ▶ 売上高および営業利益の増加要因：販売価格是正
ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量増加
- ▶ 経常利益および純利益の増加要因：持分法による投資損益の改善
為替差損益の改善

1. 売上高・利益

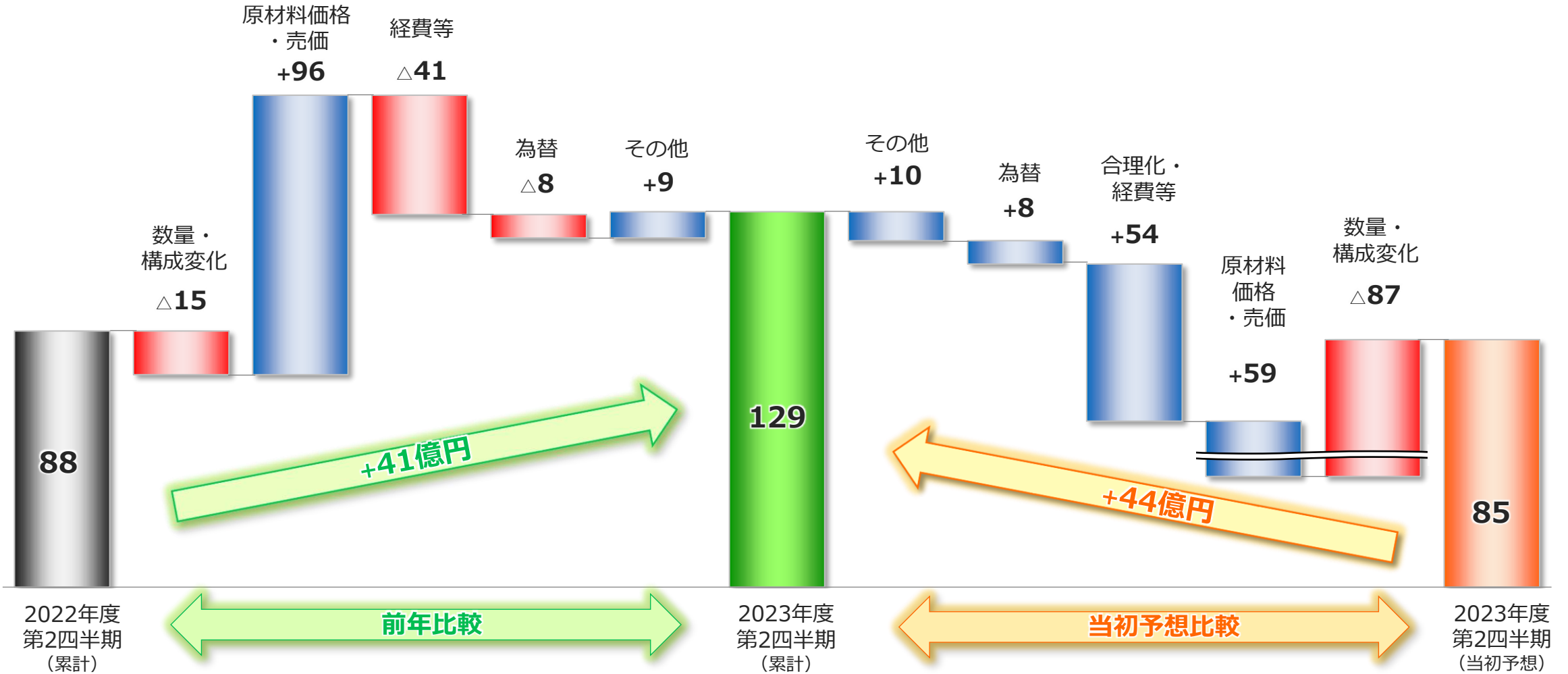


	(億円)					
	2022 年度 第2四半期 (4-9月)	2023 年度 第2四半期 (4-9月)	増減	(前期比)	[参考] 2023 年度予想	
					当初予想	2023.11予想
売上高	2,352	過去最高 2,568	+216	(+9.2%)	5,800	5,600
売上総利益	492	551	+59		-	-
営業利益	82	過去最高 127	+45	(+54.1%)	330	370
(営業利益率)	3.5%	4.9%	+1.4P		5.7%	6.6%
のれん等償却前営業利益	88	過去最高 129	+41		340	375
(のれん等償却前営業利益率)	3.7%	5.0%	+1.3P		5.9%	6.7%
経常利益	60	過去最高 120	+60	(+99.4%)	270	320
特別利益	15	5	△10		-	-
特別損失	3	8	+5		-	-
税前三半期純利益	72	117	+45		-	-
法人税等	32	29	△3		-	-
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	29	+6		-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	17	過去最高 60	+43	(+247.7%)	140	160
(四半期純利益率)	0.7%	2.3%	+1.6P		2.4%	2.9%
のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益	22	過去最高 62	+40		150	165
(のれん等償却前四半期純利益率)	0.9%	2.4%	+1.5P		2.6%	2.9%
国内鉛建値 (万円/t)	34.17	36.84	+2.67		34.6	38.1
L M E (US\$/t)	2,090	2,144	+54		2,100	2,200
為替 (円/US\$)	135.30	142.61	+7.31		135.00	145.00

1. 売上高・利益

営業利益増減要因 (前年・当初予想比較)

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

2. セグメント別業績

(億円)

		2022 年度 第2四半期 (4-9月)		2023 年度 第2四半期 (4-9月)		増減		[参考] 2023 年度予想			
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	当初予想		2023.11予想	
								売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
自動車 電池	国内	377	18 (4.7)	411	22 (5.3)	+34	+4 (+0.6)	940	55 (5.9)	950	70 (7.4)
	海外	1,218	61 (5.0)	1,254	76 (6.1)	+36	+15 (+1.1)	2,520	150 (6.0)	2,470	160 (6.5)
産業電池電源		395	6 (1.5)	395	14 (3.5)	+0	+8 (+2.0)	1,110	90 (8.1)	1,100	95 (8.6)
車載用 リチウムイオン電池		273	2 (0.7)	406	7 (1.8)	+133	+5 (+1.1)	1,030	40 (3.9)	880	40 (4.5)
特殊電池およびその他		89	1 (1.5)	102	11 (10.3)	+13	+10 (+8.8)	200	5 (2.5)	200	10 (5.0)
合計		2,352	88 (3.7)	2,568	129 (5.0)	+216	+41 (+1.3)	5,800	340 (5.9)	5,600	375 (6.7)

23年度 第2四半期実績

- 自動車生産は新型コロナ禍や半導体不足影響の解消により増加
- 鉛価格動向はLMEは安定的に推移も、円安影響を受けて国内鉛建値は高止まり
(LME : 前年2,090⇒2,144US\$/t、国内鉛建値 : 前年34.2⇒36.8万円/t)
- 為替は円安基調が継続 (前年135.30⇒142.61円/US\$)

(注1) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

(注2) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度2Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

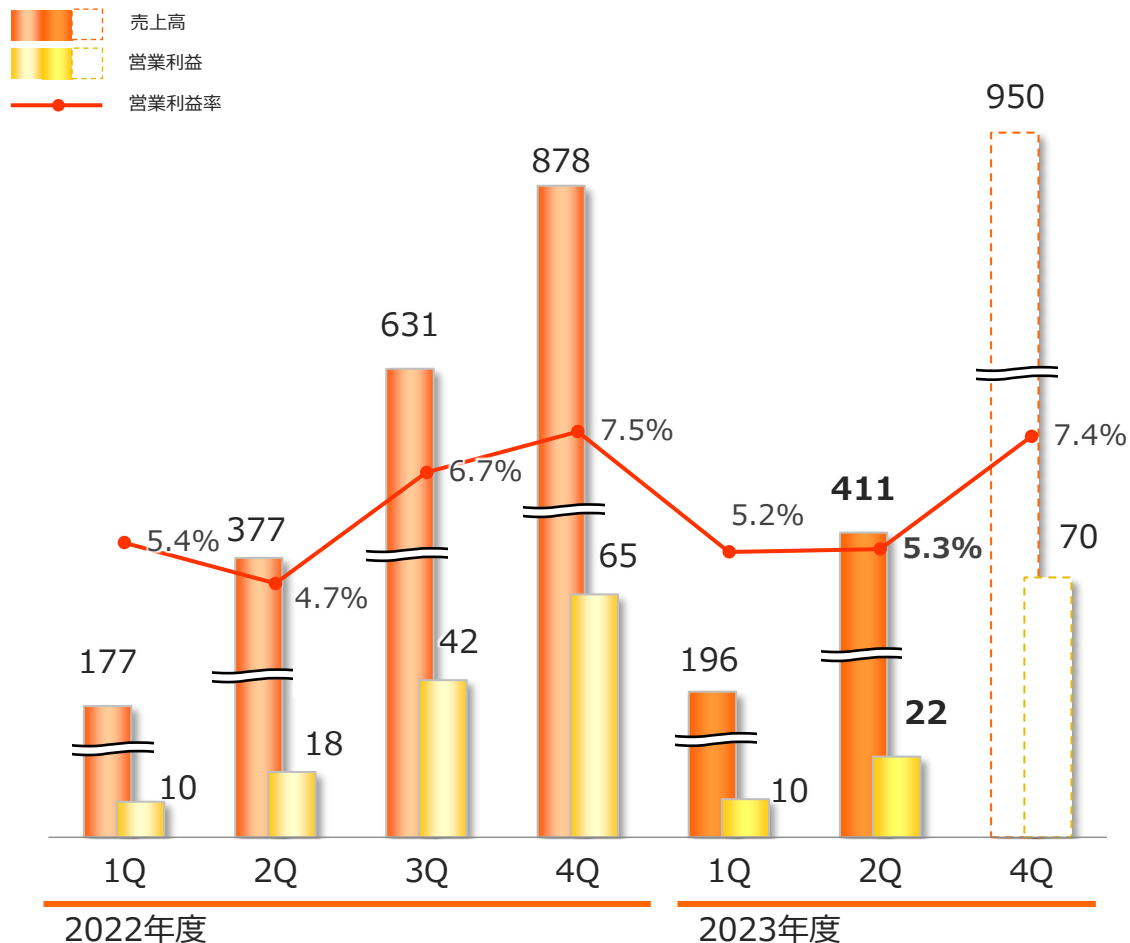
2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

増収増益

売上高・営業利益・利益率

（億円）



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

2023年度 第2四半期商況（4-9月）

- [新車向け]
 - 半導体不足の解消による新車メーカー生産回復により販売数量が増加したことや、売価見直しにより売上高は増加
- [補修向け]
 - 新車向け需要の回復により販売数量は減少するも、売価見直しなどにより売上高は前年並みを維持

増減益要因（4-9月）

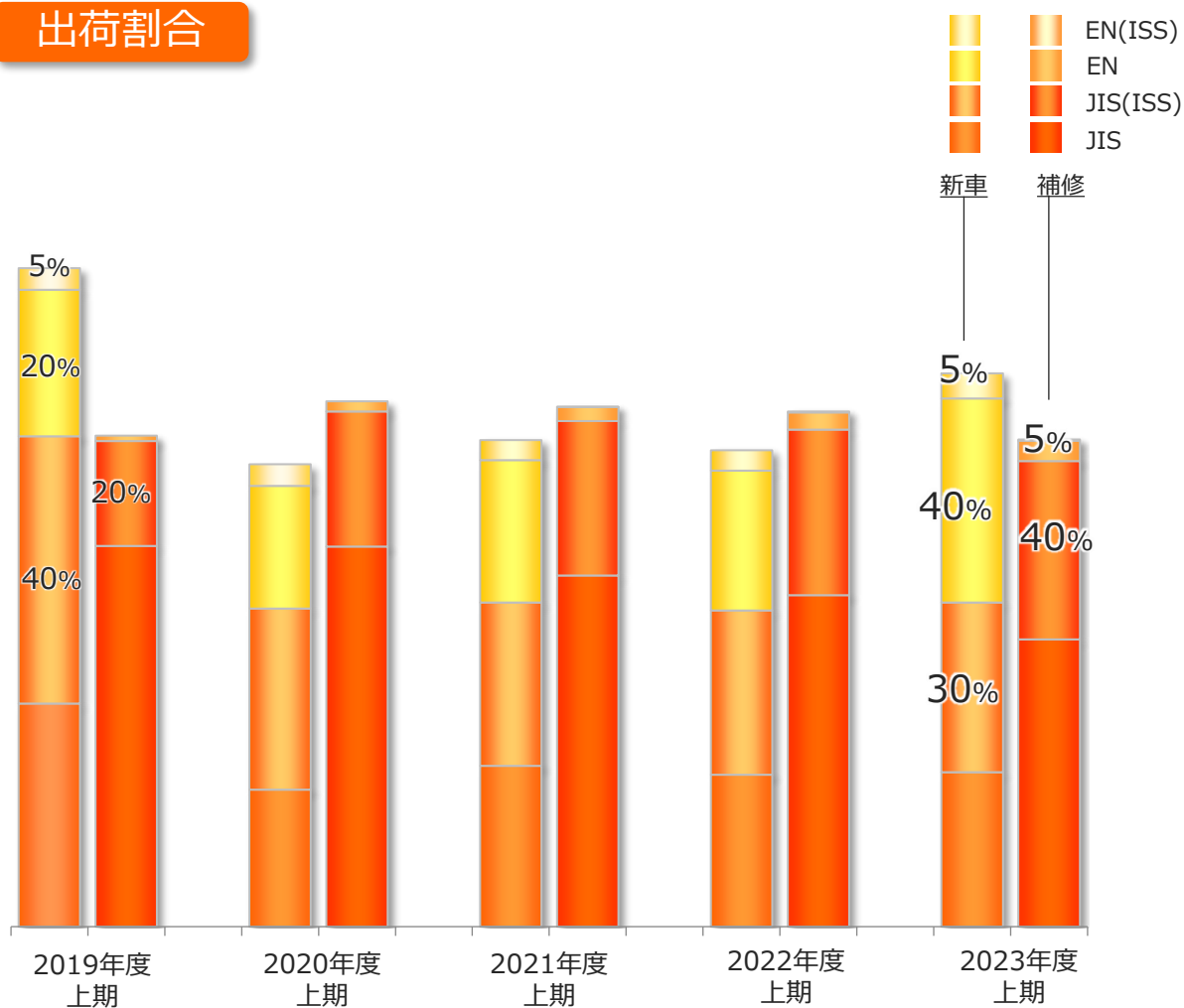
数量・構成変化	△2	製品構成の変化による減少
原材料価格・売価	+8	売価見直しにより増加
経費等	△2	

2. セグメント別業績 (自動車電池 (国内))

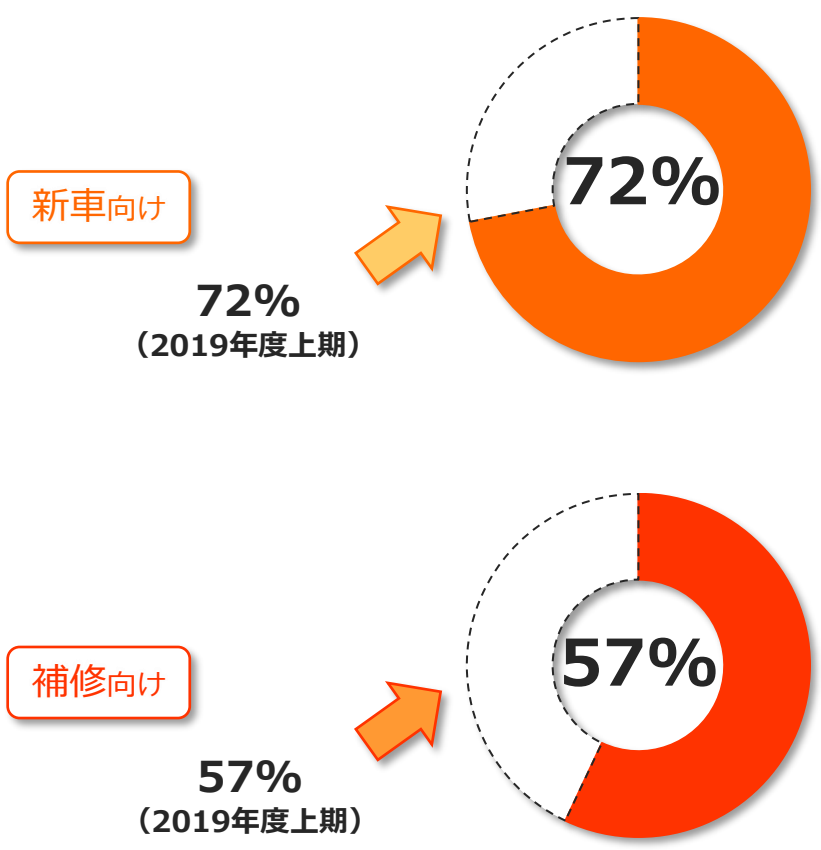
新車・補修向け出荷割合／シェア



出荷割合



シェア (2023年度上期／グループ合計)



(注) 自社調べ (輸入電池含まず)

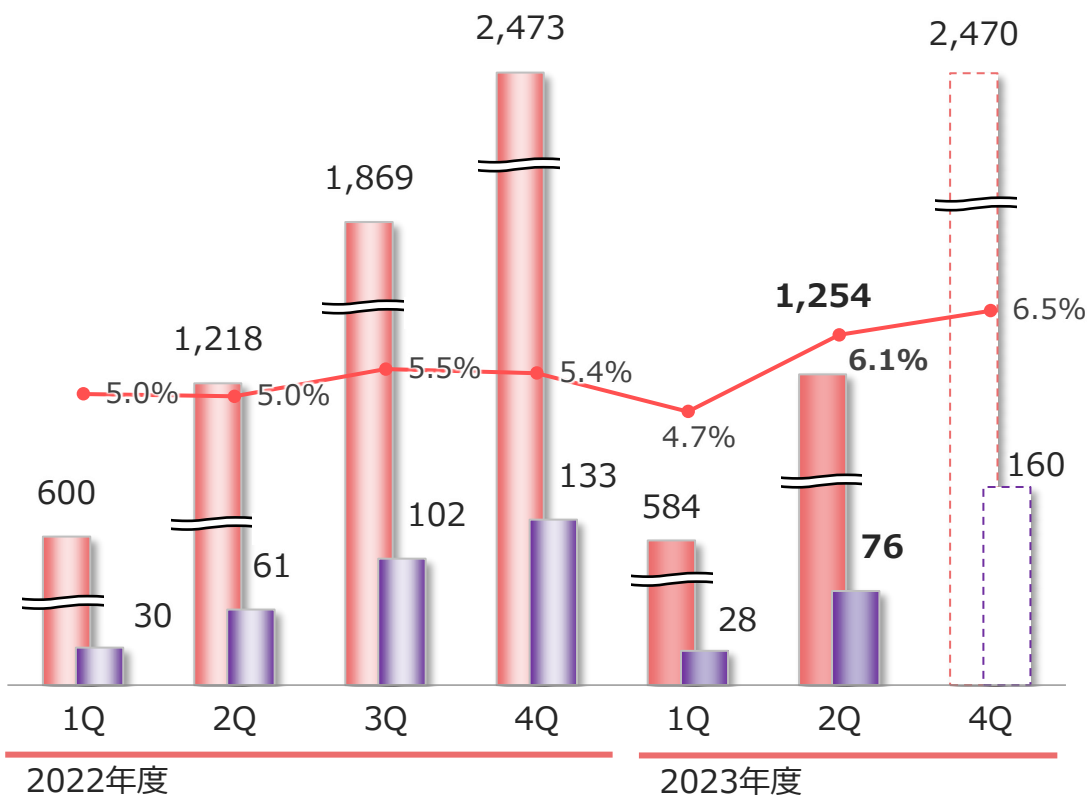
2. セグメント別業績 (自動車電池 (海外))

自動車電池 (海外)

増収増益

売上高・営業利益・利益率

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

2023年度 第2四半期商況 (4-9月)

- [東南アジア] 自動車用、オートバイ用ともに販売数量が減少
- [欧州、豪州] 自動車用販売数量が堅調に推移するとともに、売価見直しにより売上高は増加
- [中国] 新車用販売数量が減少

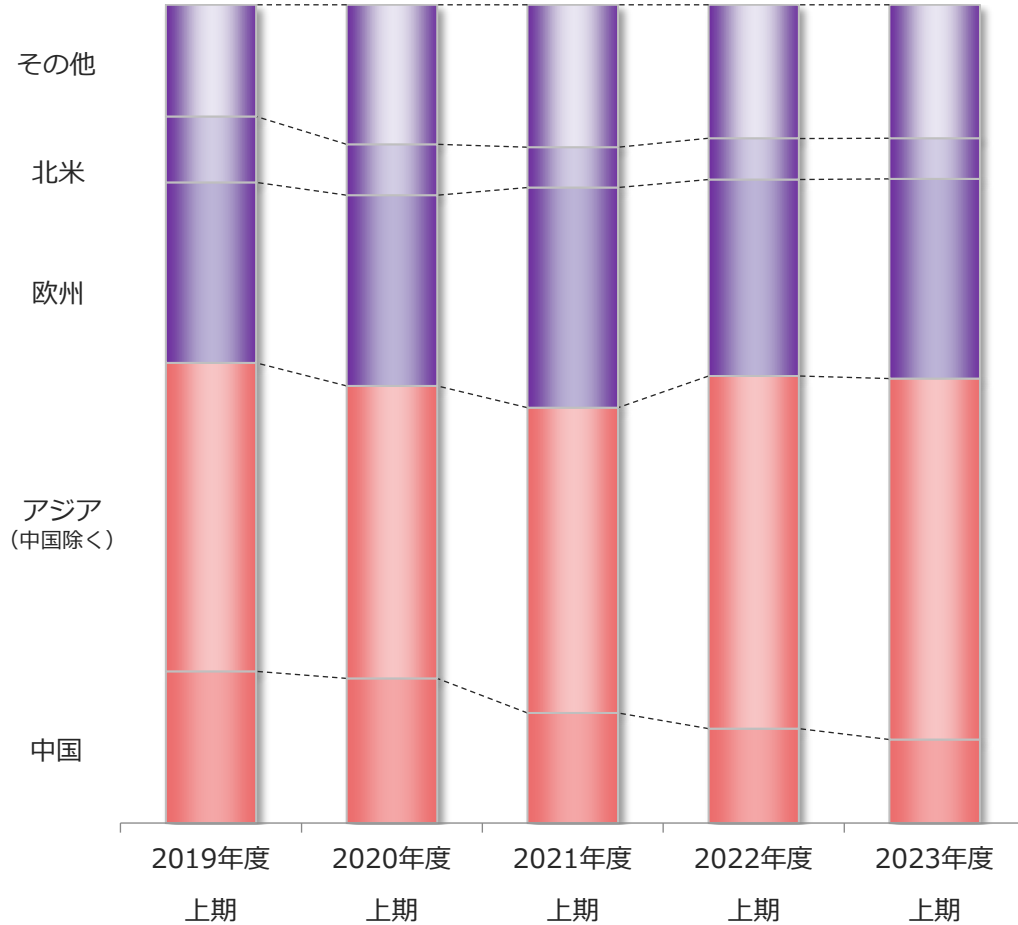
増減益要因 (4-9月)

数量・構成変化	△40	主に中国、インドネシアでの物量減
原材料価格・売価	+76	コスト上昇の売価反映により増加
経費等	△13	インフレ影響による経費増加
為替	△8	トルコリラ安の影響

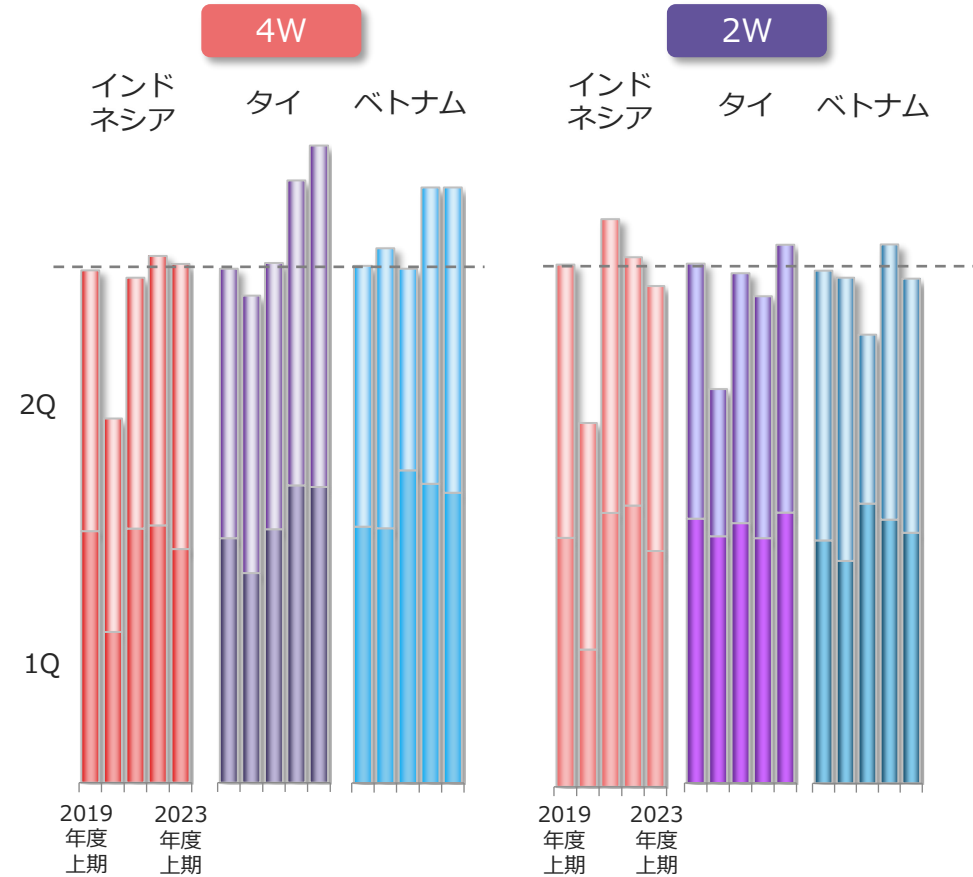
2. セグメント別業績 (自動車電池 (海外))

地域別売上高比率／シェア

地域別売上高比率 (自動車電池 (海外))



インドネシア・タイ・ベトナムの出荷割合



(注) 持分法適用会社含む

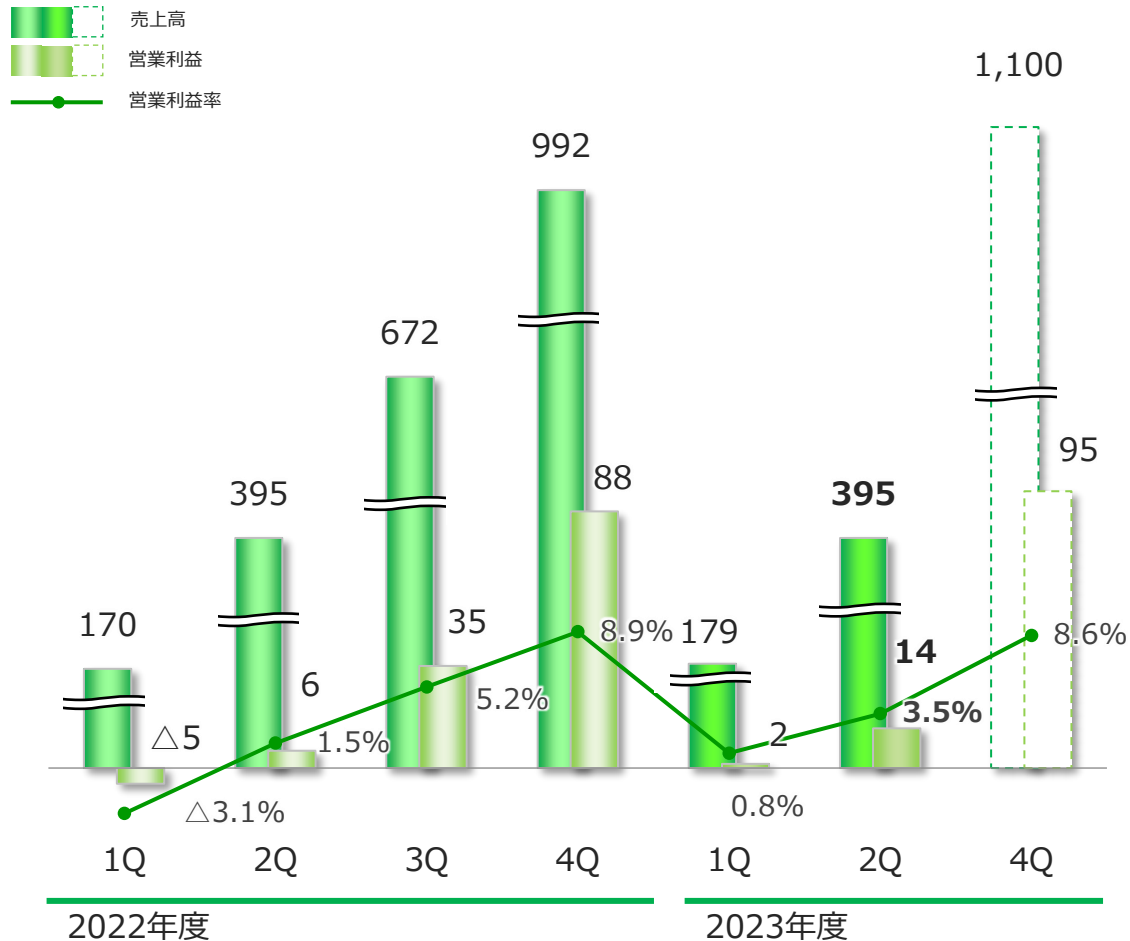
2. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

増収増益

売上高・営業利益・利益率

(億円)



2023年度 第2四半期商況 (4-9月)

- ▶ [常用 (国内)] 2022年度下期より販売開始の蓄電システムの販売が増加
- ▶ [非常用 (国内)] バックアップ用電池電源装置は売価見直しなどにより売上高は堅調に推移
- ▶ [フォークリフト用 (グローバル)] 国内販売数量は減少するも、売価見直しなどにより売上高は増加

増減益要因 (4-9月)

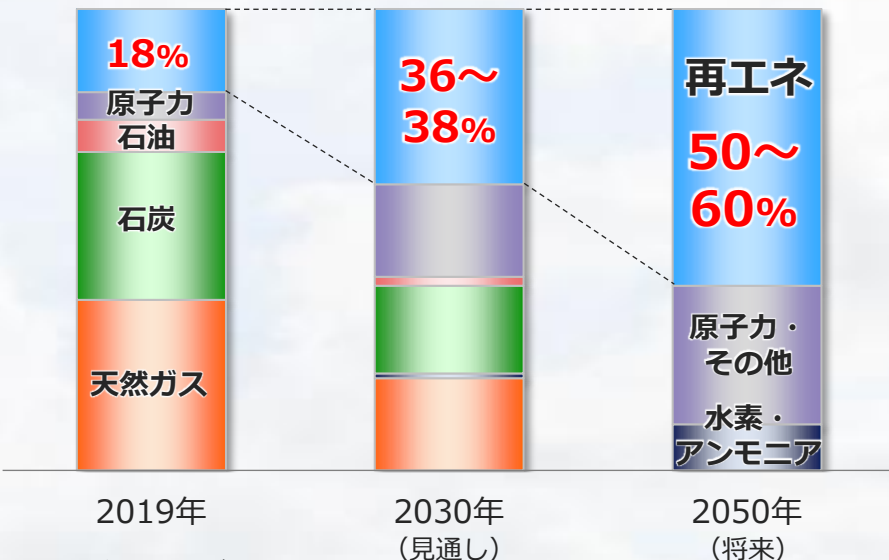
数量・構成変化	△2	
原材料価格・売価	+12	売価見直しにより増加
経費等	△2	

(注) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度2Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

2. セグメント別業績 (産業電池電源)

常用分野の戦略

国内の電源構成の推移予想



出典：資源エネルギー庁
「2050年カーボンニュートラルの実現に向けた検討」 「第6次エネルギー基本計画の概要」

令和5年度 再エネ関連概算予算

- 系統用蓄電池等の導入及び配電網合理化等を通じた再エネ導入加速化事業

概算要求額	100億円
-------	-------
- 需要家主導による太陽光発電導入促進補助金

概算要求額	165億円
-------	-------

蓄電池の重要性の拡大

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、蓄電システム (ESS) の重要性が拡大

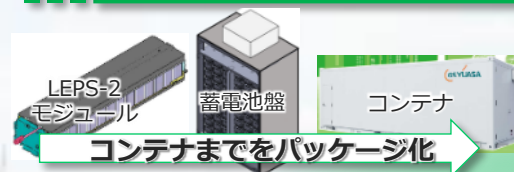
需要家側・系統連系などで再エネ関連の補助金が拡大

拡大する機会を生かし、

常用分野

2022年度対比 約**3倍**の容量に拡大
(容量 約300MWh目標)

第六次中計期間 (~2025年度)



競争力強化
顧客満足の上昇

大容量PCSの開発推進

コンテナ体型ESS
(Energy Storage System)

蓄電池
+遠隔監視サービス
(STARELINKサービス)

All in one ビジネス
の構築

蓄電池+遠隔監視サービス
+大容量PCS
によるAll in one ビジネス

2. セグメント別業績 (産業電池電源)

ESS案件の一例

北豊富変電所
(北海道天塩郡豊富町)



- 事業主：
北海道北部風力送電株式会社
- 納入：2020、21年度
- 稼働：2023年3月
- 容量：720MWh

蓄電池設備全景
(提供元：千代田化工建設(株))

今後も電力システムの安定化により 再生可能エネルギーの活用に貢献し続ける

ENEOS 室蘭事業所
(北海道室蘭市)



ENEOS 室蘭事業所
(建設段階)

- 納入：2022年度
- 稼働：2023年度 (予定)
- 容量：88MWh

ENEOSグループ
大阪国際石油精製 千葉製油所
(千葉県市原市)



大阪国際石油精製
千葉製油所
(完成イメージ)

- 納入：2023、24年度 (予定)
- 稼働：2025年度 (予定)
- 容量：202MWh

Honda熊本製作所
(熊本県菊池郡大津町)



リチウムイオン蓄電池
設置イメージ

- 事業主：
東京ガスエンジニアリング
ソリューションズ株式会社
- 納入：2023年度
- 稼働：2024年4月 (予定)
- 容量：20MWh

田川蓄電所
(福岡県田川郡香春町)



リチウムイオン蓄電池設備

- 事業主：
NTTアノードエナジー株式会社
九州電力株式会社
三菱商事株式会社
- 納入：2022年度
- 稼働：2023年7月
- 容量：4.2MWh

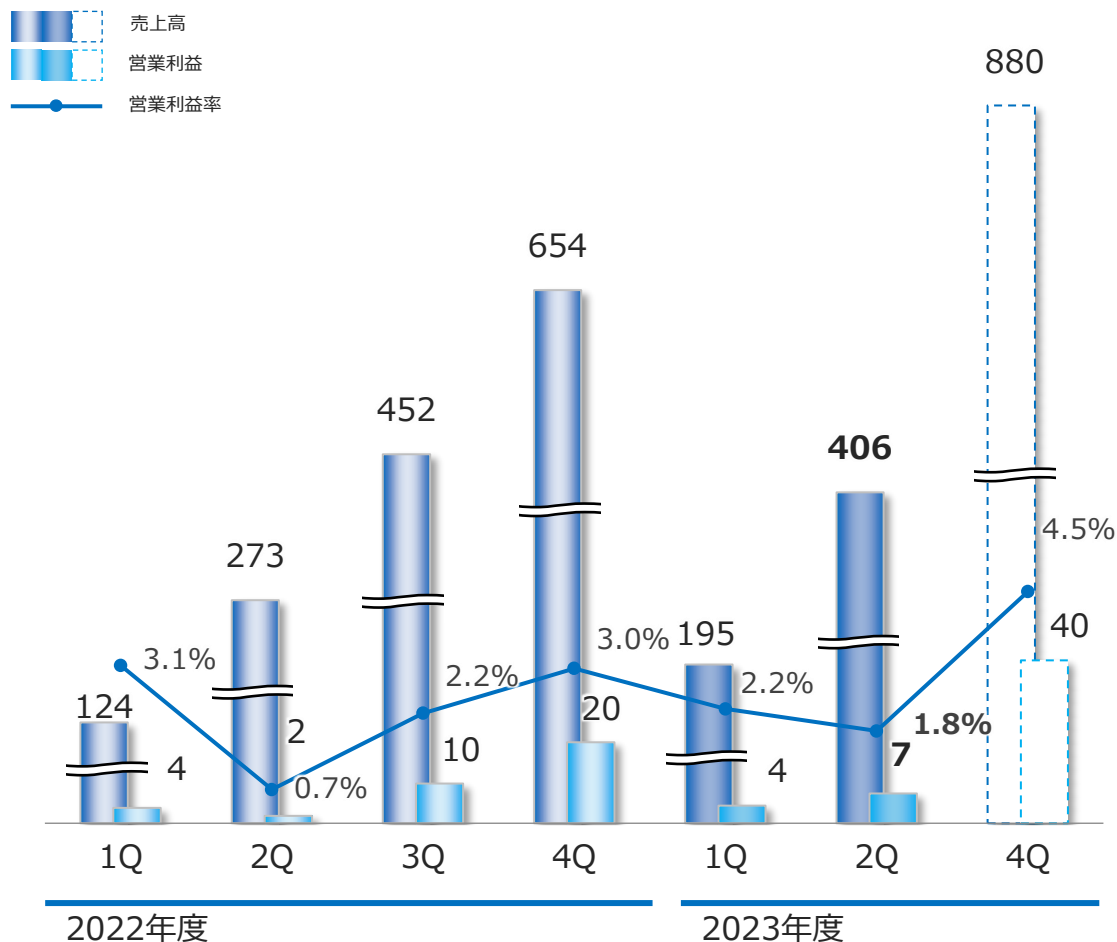
2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

増収増益

売上高・営業利益・利益率

(億円)



2023年度 第2四半期商況 (4-9月)

- ▶ [HEV] ↗
 半導体不足解消による新車メーカー生産回復、BECの生産体制強化により販売数量が増加
- ▶ [PHEV] ↘
 搭載車種の販売数量が微減
- ▶ [12V LiB] ↗
 納入車種の販売増加により販売数量が増加

増減益要因 (4-9月)

数量・構成変化	+29	HEV用LiBの販売増加
原材料価格・売価	△0	
経費等	△24	BEC第2工場稼働や物量増に伴う経費増加、BEV研究開発費増加

2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

BEC・LEJの取り組み



Blue Energy

車載用
(HEV)
製造販売



Blue Energy



生産
能力

2022年度下期
5,000万セル/年間



2025年度
7,000万セル/年間

2030年代半ばまで
拡大する
日系自動車メーカーの
HEV需要に対応

2023年度
Honda・Toyota以外の
メーカーへも拡販

Lithium Energy Japan

車載用
(EV/PHEV)
製造販売

産業用 (ESS)
製造



<EV・PHEV用リチウムイオン電池>



三菱自動車
「ミニキャブ・ミーブ」用
新型リチウムイオン電池の量産開始



PHEV用リチウムイオン電池の
納入車種拡大

<産業用リチウムイオン電池>

- 新たな電池の開発 (第三世代)
- All in one ビジネスの開発
(コンテナ一体型ESS+大容量PCS)

※産業電池電源事業部と協働

2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

BEV用リチウムイオン電池の拠点と戦略



Honda・GS Yuasa EV Battery R&D

車載用
(BEV)
研究開発



京都事業所
事業開始 2023年8月1日

単なるサプライヤーと自動車メーカーの関係を
超えて、双方のエンジニアが電池・車両の最適
な解を探って開発を進める

新たな付加価値を生み出すキー技術

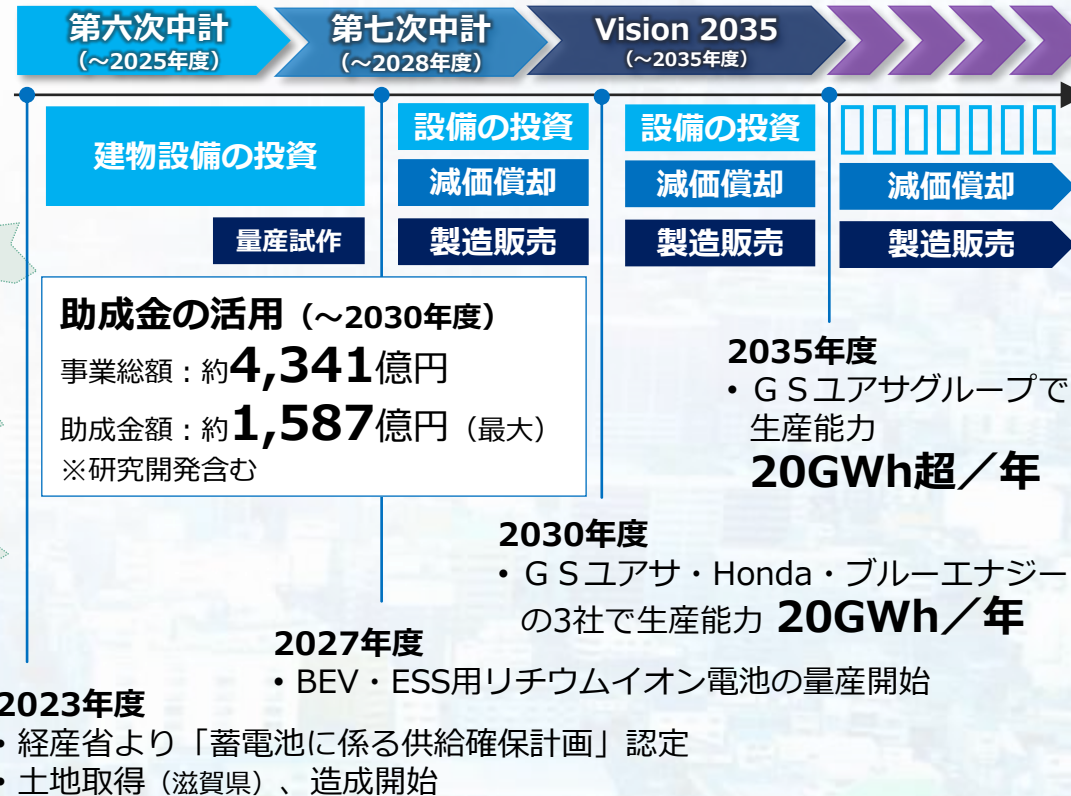
- ・「電池セル技術」 (GSユアサ)
- ・「車載パック技術」 (Honda)
- ・「生産技術」 (GSユアサ・Honda)

それらの技術を融合させ、
イノベーションを加速

BEV事業

車載用
(BEV)
製造販売
※ESS含む

<タイムテーブル (イメージ) >



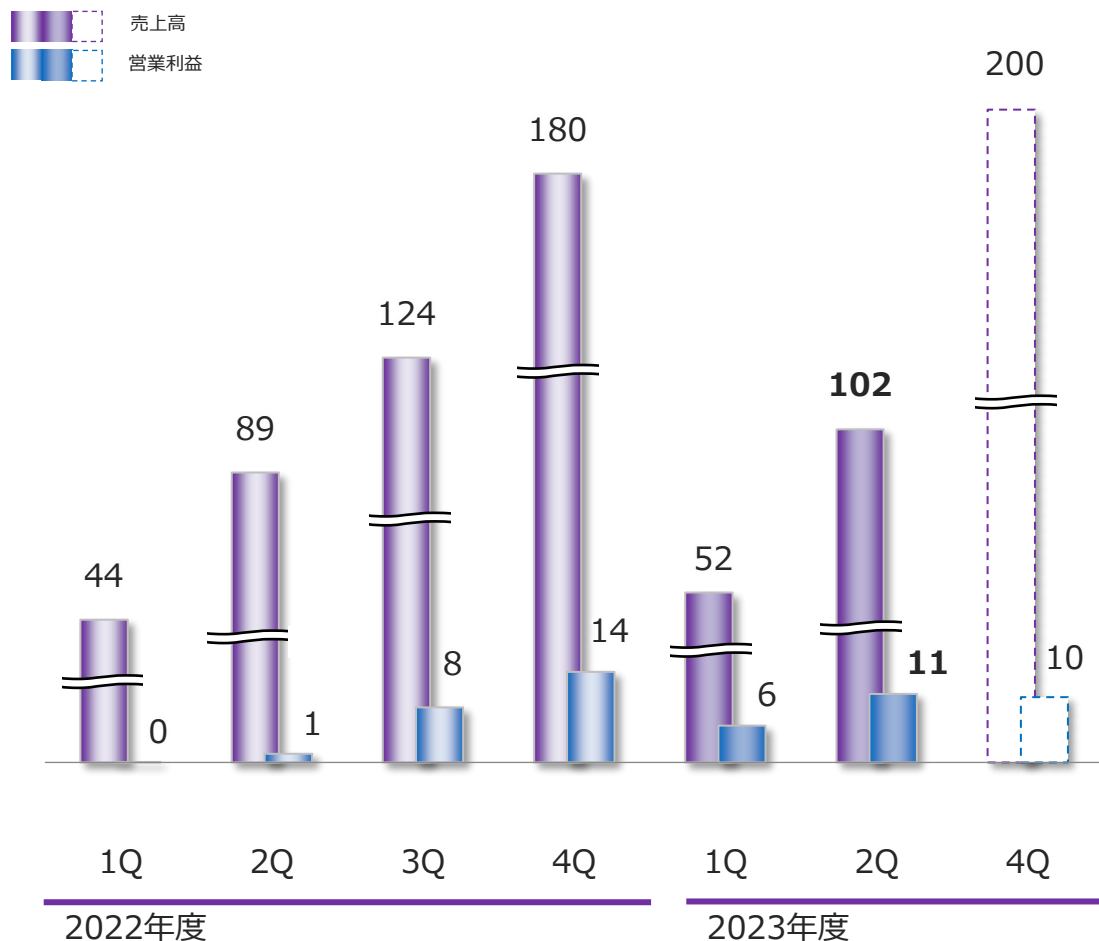
2. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

特殊電池およびその他

増収増益

売上高・営業利益

(億円)



2023年度 第2四半期商況 (4-9月)

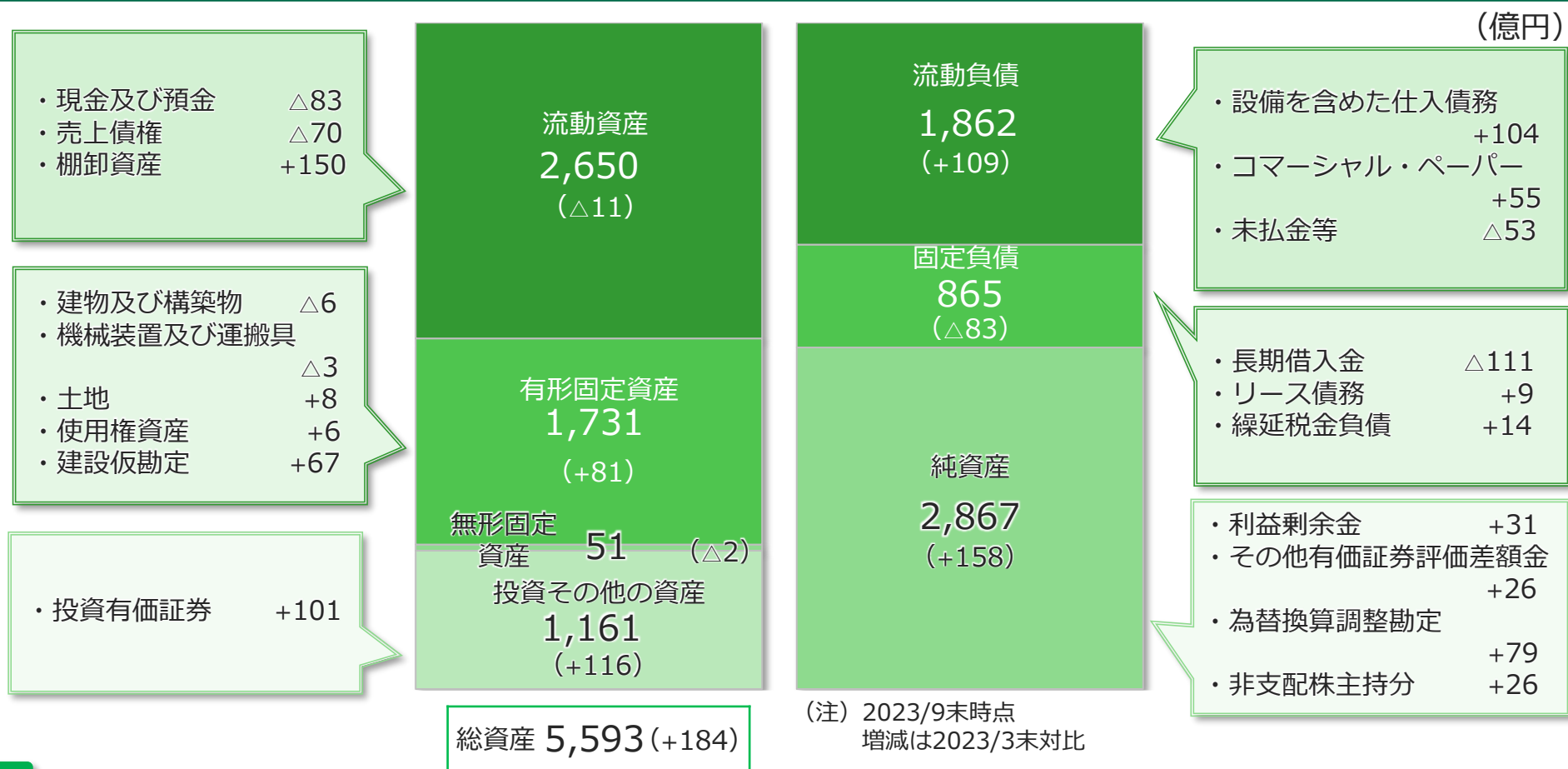
- ▶ [航空機用リチウムイオン電池] 主としてエアライン（補修）向け販売数量が増加
- ▶ [膜事業] 2023年度より、産業電池電源セグメントから移管

増減益要因 (4-9月)

航空機用エアライン（補修）向け販売増加ならびに経費の減少により増益

(注) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度2Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

3. 貸借対照表

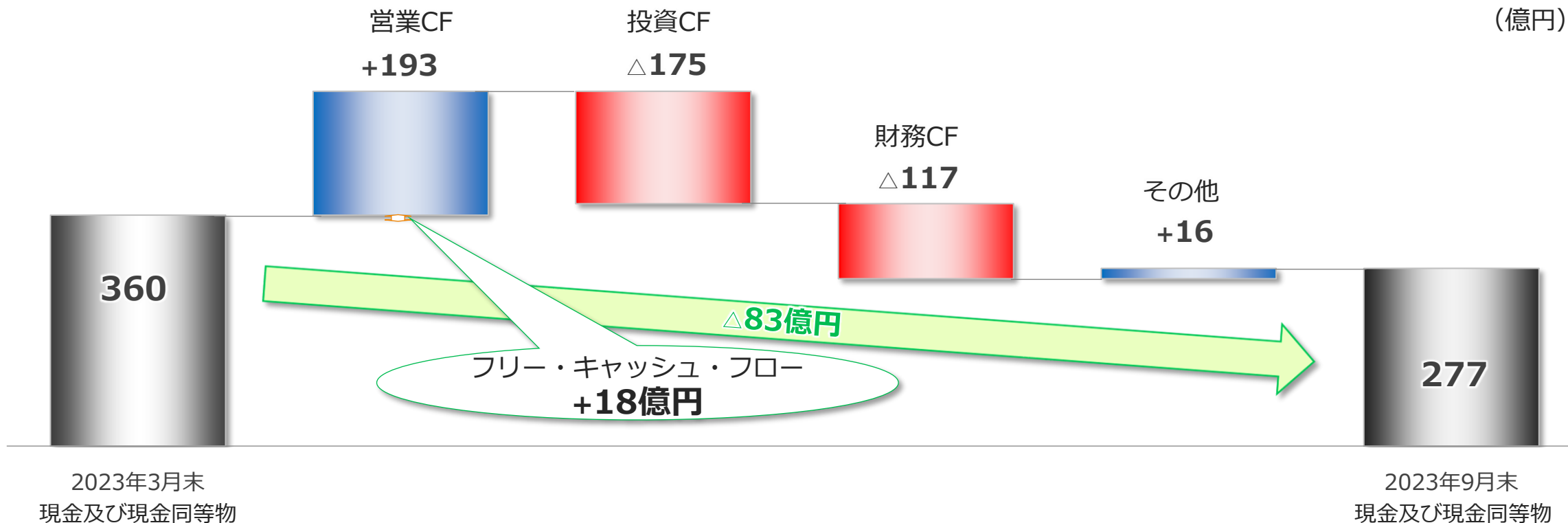


- ポイント**
- 主に産業電池電源で需要期に向けて棚卸資産が増加
 - ブルーエナジー第2工場の増産投資などで建設仮勘定が増加
 - 株価上昇の影響により投資有価証券が増加
 - 円安の影響により為替換算調整勘定が増加

	2023/3末	2023/9末
自己資本比率	42.6%	43.6%
借入金総額	1,037億円	974億円

4. キャッシュ・フロー計算書

(億円)



ポイント

- 営業CF：税前利益117億円を確保、運転資金の改善などにより前年19億円から大きく増加
- 投資CF：ブルーエナジー第2工場への投資など
- 財務CF：フリー・キャッシュ・フロー+18億円と現金および現金同等物をあわせて長期借入金を返済

5. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	2022年度 通期	2023年度 通期 (予想)
設備投資額		139	152	328	510
自動車電池	国内	9	13	28	40
	海外	27	34	110	65
産業電池電源		19	6	43	25
車載用リチウムイオン電池		47	50	72	170
特殊電池およびその他		37	49	77	210
減価償却費		93	108	210	220
うち、車載用リチウムイオン電池		18	22	41	45
研究開発費		64	58	126	140
(売上高研究開発費率)		2.7%	2.3%	2.4%	2.5%

主な設備投資案件

- 京都事業所の改修工事
- ブルーエナジー第2工場の生産能力拡大のための投資
- BEV用電池の製造に向けた土地の取得、造成

6. 連結業績予想の修正

(億円)

		2022 年度 実績		2023 年度 当初予想 (A)		2023 年度 修正予想 (B)		増減 ((B)-(A))	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	878	65 (7.5)	940	55 (5.9)	950	70 (7.4)	+10	+15 (+1.5)
	海外	2,473	133 (5.4)	2,520	150 (6.0)	2,470	160 (6.5)	△50	+10 (+0.5)
産業電池電源		992	88 (8.9)	1,110	90 (8.1)	1,100	95 (8.6)	△10	+5 (+0.5)
車載用リチウムイオン電池		654	20 (3.0)	1,030	40 (3.9)	880	40 (4.5)	△150	- (+0.6)
特殊電池およびその他		180	14 (7.7)	200	5 (2.5)	200	10 (5.0)	-	+5 (+2.5)
合計		5,177	321 (6.2)	5,800	340 (5.9)	5,600	375 (6.7)	△200	+35 (+0.8)

主な修正の理由

- 中国事業の譲渡影響および車載用リチウムイオン電池事業での新規納入案件の期ズレを売上高に反映
- 自動車電池および産業電池電源事業での売価見直しの影響を営業利益に反映
- 特殊電池およびその他の航空機用リチウムイオン電池の好調や管理部門の経費削減を営業利益に反映

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

6. 連結業績予想の修正

		(億円)			
		2022年度 実績	2023年度 当初予想 (A)	2023年度 修正予想 (B)	増減 ((B)-(A))
売上高		5,177	5,800	5,600	△200
営業利益		315	330	370	+40
(営業利益率)		6.1%	5.7%	6.6%	+0.9P
のれん等償却前営業利益		321	340	375	+35
(のれん等償却前営業利益率)		6.2%	5.9%	6.7%	+0.8P
経常利益		242	270	320	+50
親会社株主に帰属する当期純利益		139	140	160	+20
(当期純利益率)		2.7%	2.4%	2.9%	+0.5P
のれん等償却前親会社株主に帰属する当期純利益		144	150	165	+15
(のれん等償却前当期純利益率)		2.8%	2.6%	2.9%	+0.3P
前提条件	国内鉛建値 (万円/t)	34.66	34.6	38.1	+3.5
	LME (US\$/t)	2,105	2,100	2,200	+100
	為替 (円/US\$)	136.0	135.0	145.0	+10.0

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕・西島 務・田中 祥太・神田 文
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

參考資料

サステナビリティ活動に対する社外からの評価

サステナビリティ評価

(2023年9月末時点)

	MSCI (米) ※1 ESG格付け	FTSE (英) ※2 ESG格付け	東洋経済新報社 ※3 CSR評価				CDP (英) 評価 ※4
			人材 活用	環境	企業 統治	社会性	
2023年	BBB	3.8	AAA	AAA	AA	AAA	A-
2022年	BBB	3.6	AA	AAA	AA	AA	A-
2021年	A	3.6	AAA	AAA	AA	AA	B
2020年	A	3.4	AA	AAA	AA	AA	B
2019年	A	3.2	AA	AA	AA	AA	B

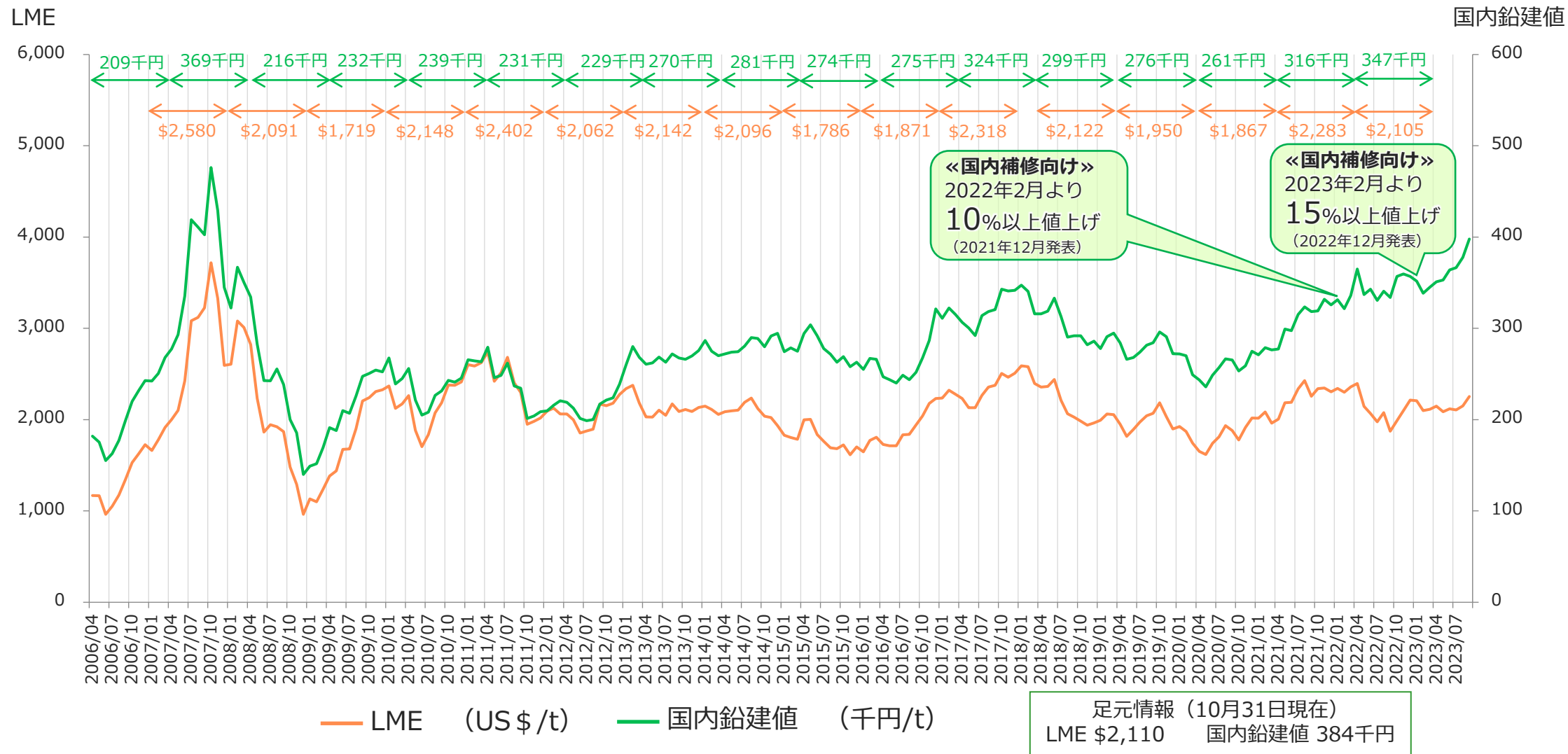
※1 MSCI (米) ESG格付けはジャパンESGセレクトリーダーズ指数によるものであり、「AAA、AA、A、BBB、BB、B、CCC」の7段階評価 (評価更新時期：6月頃)

※2 FTSE (英) ESG格付けは、「1~5」の5段階評価 (評価更新時期：6月頃)

※3 東洋経済新報社CSR評価は「AAA、AA、A、B、C」の5段階評価 (評価更新時期：11月頃)

※4 CDPは「A、A-、B、B-、C、C-、D、D-」の8段階評価 (評価更新時期：9月頃)

原材料価格の推移



セグメント別業績の四半期推移

(億円)

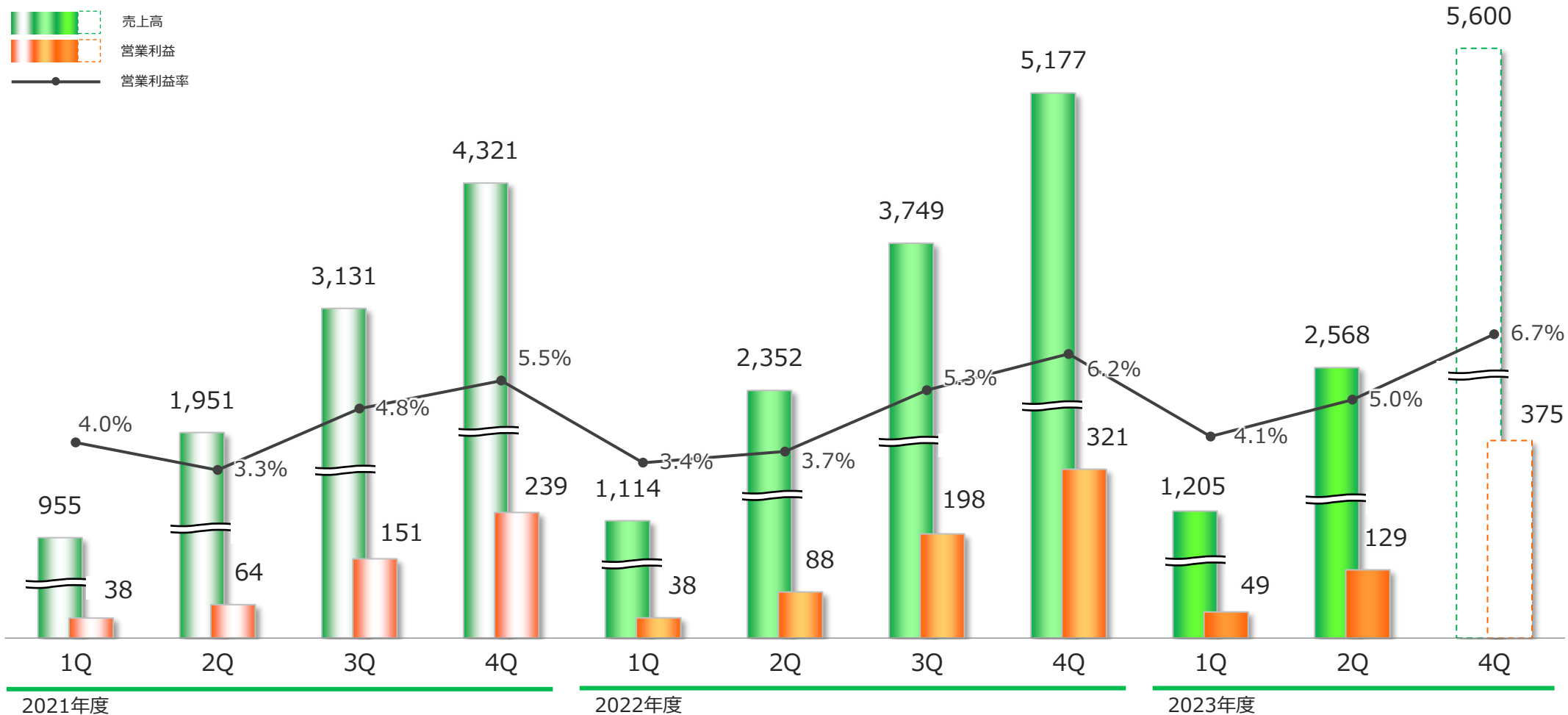
		2022 年度									2023 年度												
		第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期 (4-3月)	第1四半期 (4-6月)		第2四半期 (7-9月)		第3四半期 (10-12月)		第4四半期 (1-3月)		通期見通し (4-3月)				
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	EBITDA (EBITDA マージン:%)
自動車電池	国内	177	10 (5.4)	200	8 (4.0)	255	25 (9.7)	247	23 (9.4)	878	65 (7.5)	92 (10.5)	196	10 (5.2)	215	11 (5.3)	-	-	-	-	950	70 (7.4)	-
	海外	600	30 (5.0)	619	31 (5.0)	651	41 (6.3)	604	31 (5.2)	2,473	133 (5.4)	201 (8.1)	584	28 (4.7)	671	48 (7.2)	-	-	-	-	2,470	160 (6.5)	-
産業電池電源		170	△5 (△3.1)	225	11 (5.1)	268	27 (10.2)	321	53 (16.5)	992	88 (8.9)	106 (10.6)	179	2 (0.8)	216	12 (5.6)	-	-	-	-	1,100	95 (8.6)	-
車載用リチウムイオン電池		124	4 (3.1)	150	△2 (△1.3)	179	8 (4.4)	201	10 (5.0)	654	20 (3.0)	61 (9.3)	195	4 (2.2)	211	3 (1.4)	-	-	-	-	880	40 (4.5)	-
特殊電池およびその他		44	0 (0.2)	45	1 (2.9)	44	9 (19.9)	56	5 (9.6)	180	14 (7.7)	71 (39.4)	52	6 (10.9)	50	5 (9.7)	-	-	-	-	200	10 (5.0)	-
合計		1,114	38 (3.4)	1,238	49 (4.0)	1,397	110 (7.9)	1,429	123 (8.6)	5,177	321 (6.2)	530 (10.2)	1,205	49 (4.1)	1,363	80 (5.9)	-	-	-	-	5,600	375 (6.7)	595 (10.6)

(注1) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。EBITDAはのれん等償却前営業利益+減価償却費です。

(注2) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度2Qは、変更後のセグメントにより記載しております。

売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。